

## 【職場体験活動】での活用事例

(中学校第2学年)

### 【活用した資料】

- 中学校版「心みつめて」 p.14 第一章「信実と誠実と無くしては…」 新渡戸 稲造
- 中学校版「心みつめて」 p.130 第三章『「礼儀」の基本を知っていますか?』

### 【学習指導要領に示されている道德の内容】

- 2-(1)「礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。」

### ○ 事前学習で、「礼儀」について考えるきっかけとして…

職場体験に向けた事前学習の中で、礼儀の意義について考えるきっかけとして、「心みつめて」第三章 p.130 「『礼儀』の基本を知っていますか?」を活用しました。

全員で p.130 「形に表して心を伝える」を読み、礼儀や作法が、人間関係や社会生活を円滑にするために、長い年月をかけて作り出されてきた優れた知恵であることを理解しました。また、心と形が一体となって初めて礼儀や作法が意味のあるものとなることも確認しました。

次に、p.131 の「T.P.O をわきまえた言葉遣いや態度はできていますか?」の部分を活用し、日常生活においても、職場体験中においても、T(とき)P(ところ)O(場合)をわきまえた言動をとることが大切であることを確認しました。また、実際の職場体験中に、どのような時、どのような場面でどのような言動や態度をとらなければならないかを考え、意見交換をさせました。

最後に、p.131 の「自分は、こういうところに気をつけようと思うことを書いてみよう!」の欄に、考えたことをまとめさせました。生徒からは、「朝一番に職場の人に自分から大きな声であいさつをする。」「スーパーで職場体験をするので、お客様に対して礼儀正しい対応を心がける。」「仲の良い友達と一緒に職場で体験するけれど、遊びではないので、おしゃべりをしないように、仕事に集中するようにする。」などの意見が挙げられ、一人一人が具体的な行動のイメージをもつことができました。

### ○ 事後学習では、体験を通して考えたことをまとめるために…

職場体験終了後に、「心みつめて」第三章 p.131 「自分は、こういうところに気をつけようと思うことを書いてみよう!」の欄に記入したことが実行できたかどうか、自らの言動について振り返る時間をとりました。

さらに、職場体験での自分自身の経験と照らし合わせながら、礼儀の意味や意義についてより深く考えるために、「心みつめて」第一章 p.14 の新渡戸稲造の言葉「信実と誠実と無くしては…」を取り上げました。

稲造の言葉の「信実」と「誠実」はどのようなものなのかを考えさせながら、礼儀について意見を交換させました。(「信実」はまじめで偽りや打算がないこと、「誠実」は私利私欲を交えず、真心をもって人や物事に対すること。)

生徒からは、「大きな声であいさつをしようと思っていたけれど、はじめはなかなかできなかった。やはり、自分の中に『恥ずかしい』という気持ちがあったからだと思う。自分のやる気にかけてもらうにはそのような態度では伝わらないと思い、頑張って大きな声を出すようにした。すると、『気持ちのいいあいさつだね』と職場の方が声を掛けてくれた。やはり、礼儀は形だけではなく、心を込めることが大切なのだということが実感できた。」という声が挙げられました。

職場体験と関連させたこれらの取組を通して、礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとることの大切さを自覚させることができました。